

先週の礼拝メッセージ(2023年8月20日) ベン牧師

「信仰の証し」 ヨハネによる福音書 9:30-33

生まれつき目の見えなかった人が、イエス様によって癒やされ、目が見えるようになって家に帰っていきました。当然、両親や近所の方は、その事実には驚き、もしかしたら自分たちが知っている人と似ているだけで別人かもしれないなどと大騒ぎになりました。(8-12節)

しかし現実には、本人が目の前にいて、イエス様による癒しを証しているのです。そこで両親は、彼をファリサイ派の人々のところに連れて行きました。当時ファリサイ派と言われる宗教指導者たちがそれぞれの町にいて、彼らは宗教的なことだけでなく、社会的に町のリーダーとしての働きも担っていました。ですから、生まれつき目の見えなかった人が、見えるようになったとの報告に行ったのです。ところがファリサイ派の指導者たちは、この時点ですでにイエス様をメシアだという者は追放すると、取り決めていました。そんな彼らの前に、目が癒された人が現れたのです。しかも、イエス様が彼の目を開けられたのは安息日でした。安息日はどんな仕事もしてはならないのです。このことでファリサイ派の中でも意見が分かれました。安息日を守らず、人の目を開けるとは(人を癒すことも仕事としてみなしていた)、そんな奴は罪人だという意見と、いや、罪人がどうしてこんなしるし*を行うことができるだろうかという意見に分かれたのです。

(旧約には多くの奇跡が記されているが、目を開けるという奇跡はない。また、イザヤ書 35:4、5には、「神は来られ、あなたがたを救う。その時、見えない人の目は開けられる。」と記されている。これらのことから宗教指導者自ら、もし目を開けることができる人が現れたら、その人こそメシアであると教えていた。)

まさにイエス様はそのしるしを行われたのです。これほど明白な事実を前にしても、彼らはイエス様だけはメシアとして認めたくなかったのです。そこで彼の両親を呼んで、「この者はあなたたちの息子で、生まれつき目の見えなかったと言うのか。それが、どうして今は目が見えるのか。」(19節)と問い詰めるのです。両親はその通りだと答えるのですが、「どうして見えるようになったかわかりません。息子本人に聞いてください。」と明言を避けました。両親は当の本人から聞いているのですから知っているはずですが、しかし両親は、事実を言えば会堂から追放される、すなわち村八分になってしまうことを恐れたのです。この種の

恐れは、今もクリスチャンが少なからず持っている恐れではないでしょうか。信仰の話をすると、職場や学校や地域で、あるいは家庭の中で浮いてしまう。人の反応や顔色、場の空気をうかがい、信仰の証ができないということです。この両親にとって、息子の癒しはどれほどの喜びだったでしょう。しかし、自分たちの生活が脅かされるということへの恐れが、それを上回ってしまったのです。しかし、癒やされた当人は違いました。なんとと言ってもイエス様の癒しを経験したのですから。もちろん彼だって、イエス様をメシアだと言えば追放されるということは百も承知でした。しかしイエス様と出会い、癒やされた喜びが、恐れよりも勝っていたのです。先週、彼が生まれつき目が見えないのは、神の業があらわれるためだというお話をしました。そしてその神の業とは、彼の目が開けられることでした。しかし実はそれだけではないのです。彼は、自分が追放されることを恐れず、主の証しを大胆にする者へと、彼の心が造り変えられたのです。神の業は、彼の目だけではなく、彼の心にも現れたのです。対照的に、ファリサイ派の人々は、事実を前にしながら、自分たちが教えてきたことを承知しながら、イエス様がメシアであることを否定するために、それらを無かったことにしようとしたのです。

目が癒された人は、そんな彼らの様子にうんざりし、信仰の証を大胆に始めました。それが30節からです。

「あの方がどこから来られたか、ご存じないとは、実に不思議です。あの方は、私の目を開けてくださったのに。神は罪人の言うことはお聞きにならないと、私たちは承知しています。しかし、神を敬い、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もお聞きにならないはずですが。」

痛快な言葉です。彼ははっきりとイエス様をメシアとして証しました。彼は追放されましたが、福音は広がっていきました。そして今に至っているのです。体験から来る証はなんと力強いでしょう。私たちにもその体験があるのではないのでしょうか。癒しの体験、助けられた体験、それぞれに多くあるでしょう。しかし最も大きなことは、罪が赦されて救われたということです、私はイエス様によって罪が赦され、神の子とされたという確信こそが大きな証しなのです。この信仰の証しが、私たちの周りに影響を及ぼし、神の業が現れるのです。